



学校だより

令和5年1月10日

1月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「新しい景色をともに」

校長 加藤 智敏

明けましておめでとうございます。

保護者や地域、諸関係機関の皆様から学校への温かな支援とご協力をいただき、強い連携の中で、子どもたちは健やかに育っております。心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍が続く中ではありますが、世間では少しずつ行動の規制も少なくなり、人同士のかかわり、行事等への参加の機会が増えてまいりました。初日の出を一目見ようと集う人々や、私も市内神社の行列に並びましたが、初詣に出かける人も増えたのではないかと思います。人々の賑やかな声が戻ってきています。スポーツ好きな私は、サッカーW杯の余韻に浸りながらも年末にバスケットボールのウィンターカップ、年始からは箱根駅伝や全国高校サッカー選手権大会、全国高校ラグビー大会をテレビ等で視聴していました。プレイする選手たち、応援する観客やチームの仲間たちの笑顔や真剣な眼差しを数多く見ることができました。選手たちが、この日までどれほど努力してきたか、そして指導者は、選手たちの育ちや自身の指導にどれだけ苦悩してきたのかと想いを馳せ、とても胸が熱くなりました。今の日枝小の子どもたちの育ちの様子や教職員が尽力する姿に重なるものがあったからとも言えます。感動を胸に、そして、気持ちを新たに、子どもたちのより良い育ちや学びの充実を目指したいと思います。今後とも温かなかかわり、学校教育活動への参画をお願いいたします。

新しい年を迎え、私のお気に入りの場所でもある学校前の歩道橋の上に立ちました。ここから鎌倉街道を吉野町3丁目の交差点、それに続く阪東橋方面に向かって眺めることが好きです。都会の街並みの中を歩く子どもたちの姿や足早に通勤する人々の姿、そして、関内方面や上大岡方面に行き交う車やバスの流れ、当たり前のように過ぎていく景色を前に、自分自身も今の日枝のまちの中に溶け込んできていることにどこか感慨深さを感じるのです。まさに市電が走っていた時代を過ごしてきた人々は今のこの景色をどのように感じているのでしょうか。もっと以前となる350年前、吉田新田完成後の寛文13年(1673年)、日枝神社が創建された頃に、もしかすると、あるあぜ道から同じ方向を眺めた人がいるかもしれません。その人たちは何を見ていたのでしょうか。きっとその時代を懸命に生きた人々も当時の景色に溶け込みながら変わり行く景色を眺めたのではないかと思います。昨年末に日枝小同窓会の方々とお話しする機会があり、前段のような地域の歴史や学校の歴史について話を伺いました。移り行く時代の中にあっても変わらぬ地域や日枝小への誇り、そして、今を生きる子どもたちへの期待を強く感じました。一緒に同じ景色を見ていただける方々がいることに頼もしさ、心強さを感じた時間でした。

2023年、これからも子どもたちと一緒に、また、地域、保護者、諸関係機関の皆様と一緒に、子どもたち自身が創る新しい景色、素晴らしい景色を眺めていきたいと思っています。今年も変わらぬご支援、「子どもたちのために人が集える学校」の創造にお力添えをよろしくお願いいたします。